

県立「診療所」で生命を守れますか？

一般診療所の入院加算点数

(1点10円)

7日以内の期間	223点	100%
8日以上14日以内の期間	188点	84%
15日以上30日以内の期間	85点	38%
31日以上90日以内の期間	47点	21%

無床診療所から19ベッドの有床診療所に計画が変更されたことで、安心してはいませんか。これで病院の赤字が解消される訳ではなく、赤字の額がほんの少しだけ改善されると、医療局が言っているだけなのです。花泉病院では年間900万円と試算されています。これだけの金額のために、病院をやめて診療所にするというのです。

「入院は圏域で対応」などと説明されていますが、広域基幹病院はいずれも急性期の短期入院型。平均在院日数は20日を切っています。この広域基幹病院から地

県立「診療所」にして、900万円「節約」

紫 波		花 泉
65床	現 ベ ッ ド 数	75床
49人	現平均入院患者	49人
17人	診療所での入院患者 (想定)	17人
127人	現1日平均外来患者	145人
114人	診療所での外来患者 (想定)	130人
2億6,000万円	診療所での赤字 (想定)	1億2,700万円
3,500万円	赤 字 改 善 額 (想定)	900万円

(医療局試算)

どこに入院できますか

主な広域基幹病院の平均在院日数(03年)は以下のとおりです。

中 央 病 院	15.9 日
磐 井 病 院	14.8 日
北 上 病 院	14.8 日
胆 沢 病 院	16.4 日
大 船 渡 病 院	18.0 日
二 戸 病 院	18.1 日

元の病院に転院を、と思っても、「診療所」では入院日数も限られます。さらに入院期間が2週間を超えただけで、入院の加算点数(診療所の収入)が半分以下にもなり、退院をせまられることになります。県立「診療所」にして、私たちの生命、健康は守られるのでしょうか。

盛岡近郊のある一般診療所は、平均入院患者は9人で、病床利用率は43.7%となっています。

盛岡近郊の一般診療所

病 床 数	19床
1日平均入院患者数	9.0人
病 床 利 用 率	43.7%
1日平均外来患者数	63.0人
医 師	正規 2.0人 臨時 0.4人
看 護 師	正規 5.0人 臨時 4.0人

岩手労災病院の存続を

地元花巻市や、県議会でも存続の運動が続いています。しかし、国の廃止方針は変わらず、「後医療」をどうするかという方向に進んでいます。岩手医大が取得を断念し、他の医療機関に働きかけているようです。脊髄損傷の労働災害等の患者さんにとっては、他に替え難い医療機関として利用されています。どうして地元の反対を押し切ってまで、患者さんに必要な医療を切り捨てようとしているのでしょうか。

必要な医療機関は、国・県・自治体の責任で存続をさせましょう。



自治体病院は生命の砦

国の医療政策の結果、自治体立病院の赤字は7割を超えています。住民の健康や生命は、営利優先では守れないのではないのでしょうか。釜石市民病院は、累積赤字等を理由に「統廃合」= (廃止) が進められ、盛岡市立病院でも黒字にするための「改革」がされようとしています。

東北・北海道の医師不足は深刻です。特に、小児科、産婦人科は、一刻も猶予できない状況です。自治体立病院も例外ではありません。抜本的な改革が必要なのは、こうした医師確保対策ではないのでしょうか。